

# 令和5年度 日本体育大学同窓会 東北地区協議会 報告書

1 期 日 令和5年10月28日(土)

2 会 場 秋田県仙北市「亀の井ホテル田沢湖」

3 参加者 大学関係者:松浪健四郎 理事長、今村 裕 常務理事、高田佳朗 同窓会長  
大海二郎 校友課長、永塚聖美 校友課

宮城県 遠藤健三(本部副会長 宮城県会長)

市川敬行(宮城県副会長)

鴫久美子(宮城県副会長)

福島県 羽根田ひとみ(福島県会長)

角田 誠(福島県企業人)

加藤かの子(福島県女子部)

佐藤卓弘(福島県事務局長)

山形県 石澤照夫(山形県会長)

沼澤靖浩(山形県副会長)

渡部千鶴子(山形県副会長)

岩手県 及川勝義(岩手県会長)

田村 忠(岩手県副会長)

平賀玲子(岩手県副会長)

鈴木清次郎(岩手県企業人)

青森県 澤田晴美(青森県会長)

田代美紀子(青森県女子部)

野呂美紀子(青森県女子部)

廣谷 滋(青森県事務局長)

秋田県 黒田清志(秋田県会長)

大山史子(秋田県副会長)

佐々木聖子(秋田県女子部)

柴田 衛(地区支部長)

今野敏行(秋田県事務局長)

安藤 純(秋田県副会長)

村山一郎(秋田県副会長)

大友優子(秋田県女子部)

小松 満(地区支部事務局)

青谷千里(秋田県事務局)



[ 高田佳朗 同窓会会長 ]



[ 遠藤健三 東北ブロック長 ]

## 4 協議会 I

・開催県会長挨拶 黒田清志 秋田県会長

・本部同窓会役員、大学関係紹介

・各県自己紹介

・協議(議長:遠藤健三 東北ブロック会長)

各県同窓会からの活動状況報告

\*各県の活動概要資料配布済み

・同窓会活動報告 高田佳朗 同窓会長

・質疑応答

・情報交換



[ 黒田清志 開催県会長 ]

## 協議会 I

### ◆大学・同窓会への質問等

#### (1) 教員養成について(福島県)

- ・教員中心の本県同窓会組織の現状と維持のためにも、減少している教職課程履修学生への教員養成に向けた指導の充実について

\* 大学より詳細資料配付済み

- ・文部科学省の教員採用試験期日前倒し要請と地方教育委員会の地元教職課程を有する大学との連携と日本体育大学の対応について(地域枠、大学推薦)

\* 協議会Ⅲにおいて、大海 校友課長より説明

#### (2) 実演発表会について(山形県)

- ・各県同窓会の観覧席設けていただきたい。

\* 本部より対応済 各県事務局へ案内

#### (3) 教育実習生への対応について(山形県)

\* 特別講師について、各県の実情に合わせて実施を願いたい。

#### (4) 大学の先生や出身者の講師の派遣について(山形県)

\* 大学からの派遣については、対応できる。  
但し、職務日程上かなり難しくなる依頼者もいることを了承願いたい。

## 5 協議会 II

### ◆会長会

- 1 東北地区協議会開催に関する申し合わせについて
- 2 教育実習(特別講師)について



\* 申し合わせ事項を紙媒体(データ)として残して引き継いでいってほしい。

\* 協議会規約、本部同窓会運営規程、等を会議資料に載せること。

\* 特別講師(教育実習)について、山形県の問題提起で大学でも検討していく。  
(山形県…辞退 岩手県…不実施 宮城・福島・青森・秋田…実施)

教育実習生の特別講師にかかわる考えについて [山形県]

[令和6年度の辞退理由]

- ①教育実習生への対応については、本来は大学が行うのが筋である。
- ②まったくわからない学生に事前・事後指導や本授業での指導等に無理が生じる。
- ③実習校が受入れたのであれば、当該校が責任をもって対応している。
- ④山形県の状況としては、実習校が広範囲のため特別講師を配置する事が難しい。
- ⑤教職員を退職しても、再任用制度を使って仕事をしている方が多く、70歳までの方を探すのが大変である。

## 協議会Ⅱ ◆企業人会

### 1 同窓企業人の把握の方法と組織づくりについて [福島県 提案]

○企業人の同窓生を活性化させるため

①教職員に就いている同窓生がメインとなっている。

②職業別の把握

- ・警察官 ・刑務官 ・行政職員 ・消防士
- ・自営業 ・柔道整復師 ・一般企業
- ・会社役員 ・専門学校

\* 同窓会出席できる状況の中の検証



③企業人代表者会議(全国大会)の開催 ネット配信

\* 同窓生の講演は非常にためになった。

④各支部での企業人の集いなどの開催

⑤SNSを活用しての情報共有 (Facebook・Instagram・LINE)

⑥同窓会の参加のメリットを明確にする

- ・同窓会に出席するメリット(参加してみたいと思うような内容)がないと難しい。
- ・出席することによって収入減が生じる。(やはりメリットがないと…)
- ・大都市と地方で起業されている方では方向性が違う。
  - \* 高校卒業生の名簿を入手は困難になってきている。
  - \* 若い世代の人たちは同窓会の意義を感じていない。

《大学側から》

- ・卒業生の60%は教職に就いていない。
- ・地方の同窓会に参加する企業人を少しでも増やしてほしい。
- ・同窓会組織のシフトチェンジ→県人会組織の見直し
- ・現在、企業人の名簿がない。  
(部活動ではOB会があるようなので、データを集めながら同窓会の中の企業人を確立したい)
- ・大学を卒業して同窓会に加入してくれる人は2割くらいしかいない。
- ・学生同士の県人会も開催しなくなっている。

## 協議会Ⅱ ◆女子部会

### 1 女子部会の組織づくりについて

岩手県：活動が盛んな青森県と秋田県から、様子を聞きたい

青森県：全県を3地区に分けて、小さなチームで活動している。  
役員は3地区をローテーションして決めている。

秋田県：盛んなわけではないが、6月に行われる総会の前に県の「女子の集い」を毎年実施している。若者の参加が少なく、常連の会員は高齢化が進み、課題山積である。役員も改選したいところではあるが、続く次がない。

福島県：活動が出来ない、役員のなり手がいない、などと言ってばかりいないで、まず名簿作成などを進め、動いてみたい。

### 2 各県の「女子部」の実態

- ・青森県、秋田県、宮城県は持参資料参照。
- ・岩手県は、個人情報保護法で名簿を作り難く、活動もし難い。

### 3 その他

- ① 会長・副会長・開催県の役割について  
会長…「女子部会議」の司会をする。  
副会長…会長欠席の場合の代行をする。



開催県…「女子の集い」を計画し、運営する。  
・「女子部会議」の次第を作り、記録も担当する。  
・東北地区協議会の参加申込者を確認し、その年度の名簿を作成する。

- ② 次年度の引継ぎについて

◇案件に訂正もなく、記録もそのまま次期開催県に渡せる場合は、会議資料を綴じ込んだ冊子とUSBを、会議終了後に次期開催県に渡す。

◇案件に訂正が入ったり、記録を清書したい場合などは、後日、訂正された物を次期開催県の女子部代表へ郵送する。

- ③ 規約について

◇協議会開始前には「集い」を終了する。

◇案内文書は開催県女子部が作成し、開催県事務局がまとめて大学同窓会・学校法人に発送する。

## 協議会Ⅱ ◆事務局長会

### 1 東北地区協議会要項の基本的内容について

- ・協議会実施要項、東北地区協議会規約、法人大学同窓会本部役員一覧、全国同窓会東北地区役員等割当て、東北地区協議会・事務局のあり方、同窓会規約地区ブロック運営規程、東北地区女子部規約を掲載する。
- ・申し合わせ事項内容を整理し、データ引き継ぎを次期開催県へ確実に行う。  
「東北地区協議会・事務局のあり方」について(2019年訂正)をベースに協議会Ⅰ(地区協議会が中心)の内容に女子部会を位置づけて参加すること。

### 2 県同窓会の組織づくりについて

- ・協議Ⅰの各県活動報告と重複する内容。  
\* 教員志望者の減少＝同窓会員の減少

### 3 教育実習生への対応について

- ・協議Ⅰの(3)の対応と重複する内容。

- \* 特別講師について、70歳を上限としているが、現況再任用制度等で65歳まで再雇用する方が多く、それ以降には引き受けてもらえない。



## 《大学側から》資料配布説明

- ・5学部9学科について、GUIDE BOOK 2024 24ページを参照  
(体育学部 スポーツ文化学部 スポーツマネジメント学部)  
(児童スポーツ教育学部 保健医療学部)
- ・令和5年度東北各県在学生数について

青森県 65名	秋田県 31名	岩手県 45名
山形県 36名	宮城県 55名	福島県 97名
- ・令和7年度教員採用試験期日(令和6年実施)、前倒しに関する資料

青森県 7月13日	秋田県 7月13日	岩手県 7月13日
山形県	宮城県 7月13日	福島県 7月13日
- ・学生の内、36%が奨学金を利用している。
- ・令和4年度卒業生 就職状況(全体)

企業 59%	教員 19%	公務員 7%
進学・留学 5%	就職希望なし 9%	未決定 1%
- ・入学者選抜について、学校推薦型選抜の新設(Web出願)  
⋮

## 6 協議会Ⅲ

### ○日本体育大学同窓会 高田佳朗 会長 挨拶

#### 4つのプロジェクト

- 1 学生への支援について
- 2 都道府県人会の再構築  
モデル地区から全国への拡大
- 3 グッズの販売
- 4 日體人・HPの充実



### ○学校法人 日本体育大学 松浪健四郎 理事長 講話

- ・コロナ禍において、今村常務理事による募金による奨学制度の充実が図られ、退学する学生を減少させることができた。
- ・本学は現在、大学生7,600名、大学院生220名、8,000名の大規模大学を目指す  
全国にある320の大学は、53%が定員割れである。
- ・教員養成大学160校のうち、本学は教員採用数が1番である。
- ・特別支援学校1,178校のうち、国内初の日体大附属高等支援学校を北海道網走市に障がい者のスポーツ教育を目的とした高等支援学校を開設した。
- ・JICA海外協力隊への派遣は、日体大生が一番多い。

(開発途上国へ短期隊員130名強、長期隊員400名弱を開発途上国へ派遣) 1965～2020

⋮



[ 松浪健四郎 理事長 ]



[ 今村 裕 常務理事 ]

### ○学校法人 日本体育大学 今村 裕 常務理事 講話報告

- ・ものごとに偶然はない、出会いは偶然ではなく必然的に起きている。  
\* 自分の意思や潜在意識で起こしているもの、出会いをつくるのは自分であって  
出会いは必然であり自分が起こしているもの
- ・横浜・健志台キャンパスに令和7年完成。
- ・現在、入学募集定員は1,870名である。2,000名の受け入れは可能となる。
- ・大学間で統合する話が出ている。文部科学省では統合政策として地域における  
大学等の連携・統合の促進に向けた方策を示している。
- ・本学への入学者合格の可否は、年内において92.7%となっている。  
大学のPRも5月～6月

⋮

## 協議会Ⅲ

○日本体育大学 校友課・広報課 大海二郎 課長 説明

### ・学生募集要項について

総合型選抜

\* トップアスリート(競技実績)型

\* プレゼンテーション型

\* 運動適性型

学校推薦型選抜

\* スポーツ推薦

\* スポーツマネジメント推薦

\* 一般推薦

一般選抜

特別選抜 編入学・転入学試験

\* 選抜には多くの募集形態があり、多くの学生が受験、入学できるように  
各都道府県同窓会からの支援をお願いしたい。詳細は日体大HP閲覧

### ・学部、大学院について

体育学部 スポーツ文化学部 スポーツマネジメント学部 児童スポーツ教育学部  
保健医療学部 の5学部9学科、大学院

・学生支援として、支援センターを東京・世田谷、横浜・健志台に設置。

・キャリア支援として3年次4年次にきめこまかくサポートしている。

・教員養成プログラムとして、質の高い教員の養成および教員採用試験を突破するための講座等を実施。

・本学では、運動を「する」「教える」「支える」「広げる」「伝える」「つくる」という幅広い理念を基本とした教育を推進している。

⋮



## 7 懇親会



校歌斉唱



歓迎



乾杯



歓談



余興



歓談